

図書館においてある本の中から
おすすめのものを選びました。
バラエティに富んだ本を紹介します。

池上彰のこれだけは知っておきたい！消費税のしくみ(全3巻)

池上 彰 監修



消費税について知っておくべきことを、わかりやすくまとめたシリーズです。

TEL0996-86-1111

町立 鷹巣図書館

TAKANOSU LIBRARY

神社で神さまとご縁をつなぐ本

西邑 清志 著



神さまと仲良くなって、確実にご利益をいただける人になるためのマナーや心構えなどを紹介します。

TEL0996-88-6500

町立 指江図書館

SASUE LIBRARY

Pick Up publication

長島文芸

Nagashima Bungai
ながしまぶんげい

明神俳句会

戦中の命の綱や蒸し^{ふか}し^{いも}諸

武者人形でんと構へて三代目

この家をこの子は選^{えら}び武具飾る

武者人形性格違ふ三兄弟

張り石の光くまなき島夕焼

蛭狩千の光に立ちつくす

紫陽花の咲きにし庭に主はなし

春蟬や一合五勺の米を研ぐ

釣り人が見え隠れして夏木立

淵脇 護

大堂 早苗

二階堂妙子

関 佳代美

筑前 初市

山寄加代子

二階堂恵子

迫口 君代

大堂 正弘

長島短歌会

潮速き大橋の下に釣りしとふ友に^{たま}給ひしあらかぶ^{うま}旨し

寝過ぎしと庭に出づれば向ふ岡茜に染めて日は昇りつつ

梅雨の雨止みて曇れるわが庭に赤きダリアが輝きを^{さみ}増す^{だれ}

五月雨に破れし傘をさしながら蟻の細道米粒運ぶ

五月雨はけむる如くに紫陽花の花膨らみて藍色深む

神木の高き梢にかわるがわる啼きては去りぬ鶯ほ^さほじろ^{じろ}

窓明かり小鳥の声に目覚され生かされてある朝のまばゆき

黒の瀬戸越へ来る南風は磯の香を^はらみてわが打^えつ球を転がす

市尾 操

岩下 ち江

岩下 房代

黒の瀬戸越へ来る南風は磯の香を^はらみてわが打^えつ球を転がす

樫平 頼子

田畦焼く煙は恋し^{こほ}不如帰声啼く峽^{かい}を通りたるとき

終日を人影もなく広き田は田植機の音のみ植田となりぬ

移植せし十日の苦瓜蔓伸びず手竹を添えて朝夕眺む

米尾 和子

坂之下典子

中山タマエ

創生短歌会

八十で死にたる人の^{うわさ}噂聞きまだ四、五年は我に残れり

悲しみの薄れゆくのも悲しけれ人の世生きてただに哀しき

間違えし分だけ回り道となり回り道にも草の花咲く

のび盛りの孫が寄り来て背比べす越されてもなお生きたく思う

何げなく払いし手にて死にし虫そのあつけなき最期をみつむ

ふる里の川に蜚を見し事が孫の便りの絵ハガキとなる

酒の席辞して帰れば遠くにて牛の鳴く声聞えて来たり

大塚 洋子

石原百合子

竹之内重信

村上 義彦

山下 学

宮元 司

野村 益信

一般作品

「短歌」

名も知らぬ野鳥水浴びわが庭に毎朝来るをまちわびのぞく

たよりなる友よ去りしや情けなし話し^{あいて}合手^{あて}が寒しき事よ

「空からはいかがでしょうかおとうさん」市民花火の寄せ書きにあり

中飯屋辰子

町田 末則

平木 良雄

「俳句」

この世にて疲れ果つるか初夏の午後 宗方 清明